

神奈川県知的障害者施設団体連合会との意見交換会(要録)

日時:平成31年2月1日(金)10:00~11:45

会場:神奈川県県民センター(303 会議室)

《出席者》

県施設団体連合会:出縄守英(会長)、高山健(横浜市)、市川高弘(川崎市)、藤澤学(県域)、
中島博幸(相模原市)、川合明子(すぎな会愛育寮施設長)、今井康雅
(総務委員長)

施保連:大矢、金子、杉山(紀)、嶋田、岩本、山本(武)、杉山(昌)、大月

- テーマ: 1. 入所施設の待機者について
2. 短期入所枠に関して
3. グループホーム利用者の支援に関して

○資料2、3に基づき、出縄会長から以下への報告があった。

1. 県域の待機者について

県から370名との回答があった。根拠は14日以上短期入所を行っている人及び市町村のケースワーカーが必要と判断している人で、実態と合っているかは微妙です。ケースワーカーによって認識の違いがあります。通所や在宅での家族の高齢化は目に見えているし、喫緊の問題だと思っています。

2. 短期入所に関して

県からの指導と言うより、法人が地域のニーズに合わせて取り組んでいます。入所待ちのための利用といった長期の方もおられます。県に提出した要望書の1~3は基本的には入所施設の必要性を言っています。セーフティネットとしては、色々な場があって、ある時は入所を選び、ある時はグループホーム(以下、GH という。)を選ぶだろうし、また入所に戻る場合もあるだろうし、色々なサービスがあって、循環しても良いのではないかと考えています。神奈川県は小規模・分散化でやってきていますので、協会としてはセーフティネットで連携してやって行きたい、という思いでこの要望書を出しています。

施設は地域生活拠点(要望書の3番目)です。在宅を支える、GHを支えるバックアップ拠点として必要です。人材確保と育成のためにも拠点がないと、GHで若い人を採用しようとしても、なかなか人が集まりませんし、GH単体では育成もできません。ある程度の連携とバックアップで支えていく。職員の人事交流も含めて、行ったり来たりもあるし、職員の意識・視野を広げるためには、色々な事業に職員をキャリアパス(注1参照)していく流れがあります。そういう意味で入所施設は大事だと思います。

再整備についても、個室化・ユニット化・バリアフリー化を求めてやって行きたいと思っ

ています。これから建替えについては、現在の定員を確保することを前提に、住居環境は改善して行きたい。今建替えられている恵和、進和学園も個室化・ユニット化でやっています。横浜市はユニット加算があるから良いが、県域にはないので、確かに市町村格差があります。

3. GH について

地域移行という中では、入所以外に生活を支えるのは GH しかありません。在宅の一人暮らしは生活支援で見えていくとして、日中サービス支援型が 30 年度から、共生型サービスができ、国も色々な要望を踏まえて少しずつシフトを変えてきています。今年できた日中サービス支援型は広がってきているが、職員配置や人の確保、さらには夜勤で短期入所も義務化してきているが、これからやってみてという段階です。

人材の確保は、介護保険で外国人の活用を図るなど進んでいるが、障害の分野ではこれからという状況です。なるべくは地域の方で、分かっている方で支えて行きたいと思っています。全て介護ではないので、就労支援もあるのでかなり柔軟にやって行く必要がある。いきなり外国の方ということは難しいと思っています。

○各氏から以下の報告があった。

★高山氏《横浜市》

- ①待機者の把握には温度差があり、今まで潜在的だった(40 代後半～50 代前半)がいよいよ顕在化し始めたとの感じがあります。
- ②松風学園の再整備が進んでいるが、半分は横浜市だが半分は民が負担しています。施設のセンター的ニーズに行政としても責任を持って欲しいと思っています。
- ③計画相談が全体の 38%と進んでいません。報酬単価も少ない中で、とにかく受けて欲しいと言われています。
- ④GH は 770 ヶ所近くあるが、老朽化対策として、増員して夜間の体制を増やすための引越が行われています。働きやすい環境づくりや、世話人の給料を一般職と同じにするなどの処遇改善に取り組んでいます。それにより辞めなくなり、休まなくなりました。

★中島氏《相模原市》

- ①津久井やまゆり園事件で短期入所が使えなくなったが、相模原市は何もしてくれなかった。自力でネットワーク作りは進んだが、支援の質と量を必要とする重度の方には、入所機能、24 時間 365 日の支援が必要です。
- ②地域支援拠点については報酬単価の話だけでなく、専門知識を持った人の確保と配置が必要なので、そのような施策を考えて欲しい。GH も同じで人の配置で苦労しています。
- ③全ての事業に提案事業加算(報酬に 10%の定率加算)がこれまで付いていましたが、見直しが言われています。これまで区分 3 以下の方に付いていた加算も廃止したいと言われており厳しい状況になりつつあります。

★藤沢氏《県域》

- ①入所調整について、県が措置から契約に変わったからという理由で行わないのはおかしい。入所待機者を調査する役割を持っている更生相談所と自立支援委員会も引いているし、市町村の福祉事務所も受給者証の発行しか行っていない。また、ケースワーカーも十分把握していません。
- ②築 30 年以上の施設が県域で7つあり、築 40 年では建替が必要になります。対象施設の定員は 400 名で、喫緊の課題になってきていますが、行政に危機感はありません。代替地を探すのも容易ではないので、県も思考停止をやめて、いかに建て替えるのか、入所施設機能は必要だという認識を、皆で共有することが大事です。
- ③加齢児の問題がありますが、施設を建てないのだから議論が始まりません。そこに踏み込んで議論する時期に来ています。

★市川氏《川崎市》

- ①待機者について具体的な数字は持ち合わせていませんが、入所調整会議を行って入所者を判定しています。地域移行はなかなか進んでいない一方で親の高齢化は益々進んでおり、施設入所のニーズは高まっています。ショートステイを使いながら、地域移行も進めながら、入所が必要な方への対応がないといけません。
- ②GH では世話人の確保が難しい状況です。給与など処遇の改善が必要だとの認識はありますが、なかなか難しいのが現状です。

★川合氏

- ①1 月末、全国大会に参加して、「入所施設の機能は 24 時間 365 日だ。その機能を見極めて中心に置いてやって行くことが大事だ。人材育成と専門性を高め、地域資源の一つとなろう。地域として開かれた施設にしよう。」との話があった。
- ②また、入所施設の日中活動を充実させる必要から、アートを取り入れようとの話があった。創作活動を世界に発信することで、もっと広がった人とのつながりができ、地域の新しい資源になるのではないかと、とのことでした。

★今井氏

- ①旧津久井郡に入所施設が集中しており、6 箇所(津久井やまゆり園は除く)、定員 400 名。GH は旧相模原市に多く 53 事業者で 790 名(2 年前)。
- ②待機者は短期入所枠を使いながらやりくりしているが、ほぼフル稼働の状況です。津久井やまゆり園の短期入所枠が使えなくなって在宅の方も大変だと思います。
- ③近頃、GH 開設のチラシが多く入るようになりました。空き物件を GH 化しているようで、まるでお店を開いてお客を探しているような感じで、障害者の支援のことなど全く考えられていないような懸念を覚えます。

○意見交換の中で施保連からは次の2点の指摘をしました。

1. 現状打開のために、連携して運動していく必要があるのではないか。
2. 国の施策は地域移行に偏っている。施設とGHを全体として考えていく必要がある。

それに対し施設側から、施設運営は家族会とこれまで両輪でやってきました。本人の幸せと家族の安心のためにやっています。このところ、行政の対応が引き気味で困惑することが多いが、あきらめないでやって行くしかない。また、行政と話す共通の物差しが無い。GHがやって行けるのも24時間365日の入所施設があるからなので、頑張って行きたいという話がありました。

以上

(注1) キャリアパスとは、ある職位や職務に就任するために必要な業務経験とその順序および配置移動のルート総称。噛み砕いていうと、キャリア・アップの道筋です。どのような仕事をどれくらいの期間経験し、どの程度能力が身につくと、どのポストに就けるのかを明確化したもので、人材育成において欠かせないキーワードといえるでしょう。

資料

1. 神奈川県知的障害者団体連合会との意見交換の開催について(別紙を含む)
2. 平成31年度神奈川県への要望事項
3. 平成31年度神奈川県への要望事項の回答概要
4. 障害者地域生活サポート事業の市町村実施状況一覧(平成30年7月1日現在)
5. 第50回関東地区知的障害者福祉関係職員研究大会—神奈川大会—企画(案)